



学校だより

1月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/ryokuenhigashi/>泉区緑園五丁目28番
TEL (811) 6710

ふれ合い、理解を深め、つながる

特別支援コーディネーター 雨宮 孝子

毎年、私は低学年を中心に「学校にはいろいろな学習の場所がある」ことを伝えています。その中で、週に1回、教室から離れて少人数のグループで自分に合ったペースで学習できる『ハッピールーム』のことや、自分に必要な教科を自分に合った環境ややり方で学習できる『5・6組』について紹介しています。

子どもは幼い頃は、自分とみんなが同じように感じ行動すると思っていることが多いです。しかし、小学生になるとだんだんと自分と他人との違いが理解できるようになってきます。学校は集団生活の場ですので、「みんなと同じことを求められる場所」と感じるかもしれませんが、本当は「みんな違ってみんないい」ところです。また、「どこで学ぶのがよい」のではなく、「自分が安心して学べて伸びることができるのがよい」ということを理解してほしいと願いながら伝えています。

子ども一人ひとりによって得意なこと、苦手なことは様々です。多くの人が当たり前のように過ごしている生活の中には、「大勢の前で緊張が高まって自分を発揮しにくい子」がいます。また、「大きい集団の中にいるとその音や動きが刺激になり、集中を保つのに膨大なエネルギーを費やさなくてはならない子」や「初めての活動の前には不安で眠れなくなってしまう子」もいます。苦手なことの方が気になって得意なことを発揮できない子には、「安心して自分を発揮できる場」や「刺激の少ない環境」「活動前の丁寧な説明や練習」などが必要です。それは特別なことではなく、視力の悪い人が眼鏡を必要とするように当たり前の支援であり誰にでも与えられている権利でもあります。

いろいろな子どもがいて、その子が自分に合った形で頑張っています。そんな姿を周りの友だちが応援できれば、誰もが安心して学校生活を送ることができます。そして、そんな感性をもった子どもたちが大人になれば、きっとみんなが安心して過ごせる社会をつくっていけると思っています。

本校では、なかよし活動や、学年間の交流などを設け、いろいろな立場や学年の子どもたちがふれ合う機会を大事にしています。先月の人権週間では、5・6組と3年生が合同マラソン学習を行いました。3年生からの感想には「5・6組さんと一緒に走るのが初めてだったので緊張したけれど、走ってすっきりしたのでうれしかったです。」「5・6組は毎日のようにマラソンをやっているのかと思うと大変だなと思ったけど、最後はすごくすっきりしました。楽しかったです。」などの言葉がありました。マラソンを通して、一緒に頑張ったり楽しんだり、互いを理解したりとつながりがもてた一日でした。

子どもたちは、興味あることに自分から関わっていく力をもっていますが、時には周りの大人が環境を用意してあげることでしか体験できない学びがあります。そういった意味で、学校はいろいろな学びの場をつくることのできる場所なのです。学校は子ども一人ひとりが「自分のことを理解してくれる人がある」と安心できる居場所です。これからも、子どもたちが様々な人と関わり、心を動かしてコミュニケーションや理解の幅を広げられる機会をつくっていきたいと思います。本年もどうぞ、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。